

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	宇井 美代子 (うい みよこ)	所属	玉川大学
研究集会等名称	日本心理学会ジェンダー研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 13 名 (うち認定心理士 1名) 非会員 2 名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>○ 公開研究集会の目的・成果 近年、学問や研究の中に潜んでいるジェンダーが研究視点にバイアスをもたらしており、研究者自身が有するジェンダーに自覚的になるべきとの指摘がなされるようになってきた。そこで、今年度は、ジェンダー研究者として、『結婚の条件』『結婚の才能』『ザ・フェミニズム』などの多数の著作を発表されており、また、こども園園長として女性就労者とそれをとりまく家族関係を観察して続けてこられた小倉千加子氏を講師として迎え、以下のご講演を実施していただいた。</p> <p>小倉氏からはジェンダー研究が女性の社会進出のみに焦点が当てられてきたことの問題点、女性の社会進出が新たな階級問題を生じさせていることに対して研究者が意識する必要性などについて、保育現場の視点を交えて問題提起をしていただき、今後の社会の発展可能性と、心理研究の課題、女性研究者の課題について参加者との討論を行った。</p> <p>その後、研究集会での討論の概要を研究会のニュースレターに掲載し、研究会メンバーに情報提供を行い、意見交換を行った。ジェンダー研究者(女性専門職)としての立場と生活者としての立場をいかにすり合わせていくかということが問題提起された。</p> <p>○ 日本心理学会 公開研究集会</p> <p>日 時：2011年9月16日(18時～20時) 講 師：小倉千加子氏 講演テーマ：失われた20年における女性の外傷 —生きづらさとフェミニスト心理学—</p> <p>○ 今後は、本公開研究集会で提起された問題点のさらなる検討も含めて、研究部会として研究の継続発展に努め、研究成果の公表を行っていきたい。</p>		